

知事記者会見の概要

日 時：令和8年8月7日（金）10:01～10:47

場 所：502会議室

出席記者：14名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から2件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 水稻新品種「ゆきまんてん」のロゴデザイン等について
- (2) コロラド州・ハワイ州訪問の実施結果について

代表質問

- (1) 令和8年度全国学力・学習状況調査結果について

フリー質問

- (1) 食料品の消費税減税について
- (2) 陸羽西線の減便について
- (3) 米坂線の復旧について
- (4) 「令和8年熊本地震」について
- (5) 発表事項1に関連して
- (6) 代表質問に関連して

＜幹事社：毎日・産経・YBC>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。

本格的な夏の暑さとなりました。昨日、今日と 2 日続けて県内に熱中症警戒アラートが発表されております。

新庄市では熱中症の疑いで 90 代の高齢男性がお亡くなりになった事案が確認されております。心からお悔やみ申し上げます。

熱中症警戒アラートは、気温が著しく高くなり、健康に被害が生じるおそれがあるときに環境省から発表されるものです。アラート発表時は、涼しい環境以外では運動等を中止するなど、熱中症を他人事と考えず、暑さから自分の身を守る行動をとるようにしてください。

今後も暑い日が予想されますので、アラート発表の有無にかかわらず、昼夜を問わずエアコンを適切に使用することや、こまめな休憩、水分補給・塩分補給をすること、お出かけの際には日傘や帽子などで日射しを避けるなど、基本的な対策をとってくださるようお願いいたします。

また、高齢者や子ども、持病や障がいのある方など熱中症にかかりやすい方に対して、周囲の方から見守りや声掛けなどをしていただきますよう、お願いいたします。

それから、令和 8 年熊本地震についてですが、先月 28 日に最大震度 7 を観測した熊本地震から 10 日となりました。この地震では、昨日までに 38 名の方がお亡くなりになり、住家被害も 15,000 棟以上が確認されております。また、現地では、今も 6,500 人を超える方が断水とともに、厳しい暑さが続く中で長期間の避難生活を余儀なくされております。

お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

県としましては、地震発生直後から情報収集に努め、支援に取り組んできております。

まず、物的支援としましては、特に必要となる飲料水について、7 月 31 日に、県トラック協会の協力を得て、提供したところであります。加えて、被災者の二次避難用として県営住宅等を提供できるよう準備を進めてまいります。

次に、人的支援としましては、総務省の対口（たいこう）支援について、熊本県御船町（みふねまち）への住家被害認定調査業務に係る支援が決定し、現在、詳細について御船町と調整中であります。また、DMAT コーディネーターの派遣が決定し、8 月 13 日から 17 日まで、熊本県の災害対策本部等において調整支援活動に従事する予定です。DMAT 及び DPAT（災害派遣精神医療チーム）は派遣に向けて待機をしております。

なお、現在、被災地への支援として、7 月 30 日から、県庁ロビーや各総合支庁のほか、県立図書館、文翔館、やまぎん県民ホールに募金箱を設置して、被災地への義援金を受け付けておりますので、県民の皆様の善意のご協力をよろしくお願いいたします。

被災地では今後も厳しい暑さが続くと思込られますが、被災された皆様が一日も早く平穏な生活を取り戻せるよう、現地の被災状況やニーズをしっかりと把握し、被災者へのきめ

細かな支援のほか、復旧に向けた被災地支援に、政府や全国知事会、市町村、関係機関等と連携しながら、全力で取り組んでまいります。

☆発表事項

知事

ここで私から発表が2点ございます。

1点目は水稲新品種「ゆきまんてん」についてです。

来年、本格デビューを予定している水稲新品種「ゆきまんてん」のロゴと米袋のデザインを制作しましたので、ご紹介いたします。（補足：知事が「ゆきまんてん」の米袋デザインを写したパネルを提示する。）こちらが、米袋のデザインとなっております。このデザインは、山形の米作りに欠かせない、“太陽・自然・水”を“赤・緑・青”で表現しています。太陽が赤、自然が緑、青が水、であり、「ゆきまんてん」の白さをイメージさせる雪だるまのシルエットをデザインしております。かわいらしさと山形らしさを感じられる、三角の帽子をかぶった雪だるまを複数配置することで、にぎやかで、お子さんはじめ多くの皆様に親しんでもらえるデザインとなっております。

また、ロゴマークとして使用する場合は、このようにですね、（補足：知事が「ゆきまんてん」のロゴデザインを写したパネルを提示する。）三角形の形で使用することを予定しております。これがロゴマークです。

キャッチコピーは「まいにち、まんてん。ゆきまんてん」としました。これは、消費者の皆様にとって、親しみやすく手に取りやすい、そして毎日もりもり食べられるお米になって欲しいとの願いを込めたものです。語感も良く、多くの方に声に出していただきたい、口ずさんでいただきたいと考えております。

なお、本日から、令和9年の作付けに向け、生産者の募集を行います。また、10月10日土曜日にプレデビューイベントの開催を予定しております。このイベントを契機として、県内の皆様に「ゆきまんてん」を広く知っていただければと考えております。

本日ご紹介した米袋やロゴデザインを、生産者・実需者の方に幅広くご活用いただき、「ゆきまんてん」が皆様に愛されるお米に育っていけるよう、関係機関と連携して取り組んでまいります。

2点目はコロラド州及びハワイ州訪問の実施結果について申し上げます。

先週、7月26日から8月1日までの7日間の日程で、田澤県議会議長を含む県議会代表団と関係団体の皆様とともにアメリカ合衆国のコロラド州及びハワイ州を訪問してまいりました。

コロラド州では、州政府主催の「姉妹県州40周年記念レセプション」に出席し、ジャレッド・ポリス州知事とともに、両県州の緊密かつ強固な友好関係を今後も維持し、さらに発展させていくということを宣言し、宣言書に署名してきたところです。

また、新たな分野での交流につなげるため、東北農林専門職大学と国際交流に関する基本

合意書を締結しているコロラド州立大学を訪問し、研究分野での情報共有や課題解決に向けた協力などについて意見交換をおこなってまいりました。

今年度中にコロラド州立大学関係者の本県訪問が予定されておりますので、コロラド州立大学との継続的な交流を進めてまいりたいと考えております。

ハワイ州では、教育、観光、文化、産業など幅広い分野における交流を推進していくことを目指し、ハワイ州と姉妹県州の盟約を締結いたしました。

締結記念レセプションでは、「つや姫」をはじめ、県産食材を使用した料理や県産酒を提供するとともに、観光などの PR を行い、本県の魅力を発信してきたところです。

さらに、現地の旅行会社を訪問し、年間を通した県内への送客等について働きかけを行うとともに、現地の教育機関訪問では、県内大学との相互交流の推進に向けて意見交換をおこなってまいりました。

あわせて、この度の訪問では、本県とコロラド州との友好交流にご尽力いただいているコロラド日米協会のガルニカ理事長など 5 名、それから、ハワイ州との姉妹県州の締結にご尽力いただいたハワイ山形県人会のクウォック氏など 4 名、合計 9 名に、「やまがた特命観光・つや姫大使」を委嘱いたしました。今後、本県の魅力発信にお力添えいただけるものと期待をしております。

県としましては、コロラド州との姉妹県州 40 周年及びハワイ州との姉妹県州締結を機に両州との友好の絆をさらに深めるとともに、様々な分野での交流を一層積み重ね、本県と両州の発展につなげてまいりたいと考えているところです。

私からは以上です。

☆代表質問

記者

幹事社の YBC です。幹事社からは、令和 8 年度全国学力・学習状況調査の結果について質問させていただきます。

令和 8 年度の全国学力調査の結果が 8 月 3 日に発表されました。本県は小学 6 年生・中学 3 年生の全教科で全国平均を下回りました。小学生・中学生とも全ての教科で全国平均を下回ったのは調査開始以降で初めてと聞いております。この結果への受け止めをお聞かせください。また、今後どういった対応が必要か現時点でのお考えをお聞かせください。

知事

この度の学力調査におきまして、全ての教科で全国平均を下回ったということは、大変残念に思っております。

子どもたちが、変化の激しい社会において自らの力で未来を切り拓いていくためには、確かな学力を育成するということは極めて重要です。

県教育委員会では、今年度から、全小中学校において CBT（CBT : Computer Based

Testing の略)を導入するなど、新たな取組みを始めていると聞いております。CBT というのはパソコンやタブレットなどの端末を使って問題の出題、解答、採点を行うテスト方式ということだそうです。今後さらに、市町村教育委員会や各学校と緊密に連携しながら今回の結果や課題を詳細に分析するとともに、その分析結果に基づく実効性の高い取組みを着実に推進していただきたいと考えております。

☆フリー質問

記者

お暑い中お疲れ様です。産経新聞、菊池です。

今週、消費税減税 1%になるということが閣議決定されて、秋の審議を経て来年の 4 月からいよいよスタートすることが確実にできております。減税によって、潤う消費者もいらっしゃるけれども、特に個人事業主、外食産業とか、そういう方に関しては非常に影響が出るのではないかと聞いております。

今回の消費減税導入について、知事の所感をお伺いしたいと思います。

知事

政府は、消費税減税について、飲食料品を 2 年間に限って 1%とし、残る 1%分を給付する「実質ゼロ化」の方針を閣議決定いたしました。先の衆議院議員選挙における公約や社会保障国民会議での議論を踏まえて、高市総理が判断されたものと承知をしております。

消費税率の引き下げが行われれば、県民の皆様の負担が軽くなり、物価高対策として一定の効果が期待されます。残る 1%分の新たな給付制度につきましては、詳細が明らかにされておきませんので、お答えすることは難しいですが、消費税率の引き下げと同様に県民の皆様の負担軽減になるのではないかとこのように考えております。

その一方で、消費税は、社会保障や少子化対策の財源として地方公共団体の安定的な行政サービスに欠かせないものとなっております。減税による影響額、これは山形県にしますと、県が 110 億円、市町村が 107 億円、合わせまして 217 億円ということになるわけですが、これは本当に、非常に大きい額であります。消費税減税を打ち出すのであれば、代替財源など持続可能な財政運営を確保するための手当てを行うべきであると考えています。

代替財源の具体像につきましては、現在のところ明らかにされておきませんので、引き続き政府の動向について注視してまいりたいと考えております。

記者

加えてですね、2 年後には今度は増税が来るということで、これも県民生活にとっては、増税といいますか、元に戻すといいますか、県民生活にとってまた大変なことになると思うんですが、2 年後戻すことが可能かどうか、知事はどのようにお考えでしょうか。

知事

そうですね。2年後のことを現時点で申し上げるっていうことはなかなか難しいことだと思いますけれども、やはり2年間の限定ということでもありますので、2年後に戻すときに、一旦下がったものを戻すというのは、増税という形に、実感としてね、そんなふうに捉えられてしまうというふうに思います。元に戻すというよりは、またそれだけ払わなきゃいけないのか、というふうになってしまうかと思いますので、本当に痛し痒しなのかな、と思っています。

でも、2年後にどういう状況になっているかというところまではちょっと想定はできませんので、やはりしっかりと経過、推移というものを見守って、注視をして、地方としての立場、意見というものを県民の皆様からのご意見もお聞きしながら、地方から発信していきたいというふうに思っています。

記者

朝日新聞、斎藤です。よろしくお願いします。

続けて消費税の減税についてなんですけども、おっしゃったように地方税の減収につながるということで、全国知事会では既に5日に地方財源の安定的確保を求める共同声明を出して要請されています。

山形県として、今後、代替財源の確保について何か具体的に国に要望するというふうなこととはお考えかどうかということをお伺いしたいと思います。

知事

全国知事会としてしっかり山形県の意志も反映させてもらったというふうに思っています。もう全員一致した意見だと、地方全体の意見としてしっかり受け止めていただきたいし、そうすべきであると、責任を持ってそこはきちんと対応してほしいというふうに思っています。

記者

おはようございます。山形新聞です。

陸羽西線のことでもちょっとお聞きできればと思います。一部ダイヤのバス転換の検討を巡って、関係する市町の方から困惑ですとか、懸念の声が上がっている状況だと思います。

このバス転換の検討に関する知事のご見解を改めてお聞きできればと思います。

知事

前回は、JR 東日本から正式な提案として示されてはいないというふうに申し上げたと思

いますけど、その後どうなったかということも含め、お答えいたします。

担当部局から、7月30日にJR東日本と沿線自治体・県による陸羽西線の利用促進に関する勉強会が開催され、その中で、JR東日本から、日中時間帯の利用が少ない4便を減便することの説明と、減便分と同数のバスを運行することについて話があったと聞いております。

勉強会の中で、沿線自治体からは、「運転再開してからまだ1年が経過していない中で減便の話が出てきたことに非常に困惑している」といったことや、「沿線自治体を交えた陸羽西線の利用促進に係る検討が尽くされていない」などの意見が出たところであります。

陸羽西線は、高校生の通学をはじめ、地域の足としてはもちろん、観光面におきましても重要な役割を担う公共交通機関でありますので、県と沿線市町村でJR東日本や国土交通省に対して要望を行うため、現在、調整を行っているところです。

また、陸羽西線の維持のためには利用促進も大変重要であります。より多くの方に利用していただけるよう、沿線自治体と連携しながら、陸羽西線の利用促進にもしっかりと取り組んでいきたいと考えております。

記者

これと絡んでといいますか、米坂線の復旧とも併せて、山形県にとってはJRのローカル鉄道に対する捉え方、向き合い方が何か非常にシビアにも感じるところがあると思います。こっちは既に4年経っても進んでいない状況ですし、今度はバス転換という話もさっき陸羽西線の方であります。県として特にJRに対してどういう姿勢を求めたいかという知事としてのお考えがあればと思います。

知事

陸羽西線と米坂線の比較というのはなかなか、同じ条件ではないけれど、一番違うのはやはり、米坂線が災害で運行できなくなったということであるというふうに思っています。そして、米坂線は山形県の中だけじゃなくて、新潟県と2つの県にまたがっている、そういう広域の路線であるということも一つの大きな特徴だというふうに思っています。

それで、令和4年8月の豪雨災害でありましたので、災害が起きてから4年経過しているところですが、8月4日に福島・山形・新潟三県知事会議が開催されました。その会の中では改めて1日も早い復旧が必要であるという認識を新潟県知事と共有いたしました。

豪雨で被災した路線ですので、JR東日本の責任において、鉄道による復旧が行われるべきであるという前提のもと、これまでJR米坂線復旧検討会議などで上下分離や地域が運営する鉄道、バス転換といったことについて議論を重ねてきたわけでございます。

現在、バスの利便性向上策の試験的な運行について関係者間で検討を進めているところですが、新潟県知事と改めて現状を共有し、両県で問題解決に向けて協力することを確認してまいりました。

ちょっと困っているのは、どの方式についても、JR 東日本がどのように関わるのかというのを再三お聞きしているんですけども、そこがはっきりしないということで、県も自治体も、そのところははっきりしないとなかなか議論を前に進めることができないというところがあると聞いております。

本県では6月に「米坂線等県内鉄道復旧整備実現議員連盟」からも、バス・BRTを含めた様々な可能性について、議論を進めていくよう提言を頂戴いたしました。様々なご意見を伺っているところです。

県としましては、こうした御意見も踏まえ、他の被災路線の復旧事例も参考にしながら、沿線自治体の意向を十分尊重しつつ、できるだけ早期に方向性を見出せるよう、新潟県やJR 東日本とともに議論を前に進めてまいりたいと考えているところです。

記者

NHKの西須です。よろしくお願いします。

私から熊本地震に関連してなんですけども、熊本地震の被災地では、厳しい暑さの中で避難生活が長期化しているということです。こうした中、県内の避難所に指定されている小中学校の体育館などの冷房設備の設置率が50.7%と、東北では最も高くなったものの、市町村によって設置状況に差があることが文部科学省の最近のまとめで分かったと思います。

また、違う少し古いデータになるんですけども、県内の指定避難所における冷房設置率は67.7%と全国平均を下回っているということで、改めてですね、避難所の冷房の設置状況に対する現状の認識と、設置をさらに進めるために今後どう取り組んでいくのか、知事のお考えをお聞かせいただければと思います。

知事

はい。今般の熊本地震につきましては、厳しい避難生活が長期化する中で、避難所の環境悪化など様々な困難が生じているということは報道を通して承知をしております。

本県の防災対策につきましてですが、近年の災害等の検証結果を踏まえ、順次、見直し・強化を図ってきているところです。

とりわけ、夏の高温に対する対応ですが、昨年7月に発生したカムチャツカ半島沖地震でも厳しい暑さの中での避難で熱中症が多発し、避難時の暑さ対策が課題とされたところでした。本県の市町村が指定する避難所約1,000か所における冷房機器の整備状況は67.6%、記者さんがおっしゃいましたけれども、全国平均の74.3%を下回っているということであり、県では今年度、避難所における暑さ対策として、市町村による整備を補完するための「可搬式スポットクーラー」を100台備蓄することとしております。さらには、避難所の生活環境改善に資するよう、避難所のTKB（トイレ・キッチン・ベッド）充実強化のため、快適トイレの確保、災害支援車（LCX）、そういったものや折り畳み式簡易ベッドの導入

を予定しているところです。

また、被災者が必要とする物資を速やかに届けられるよう、備蓄品の数量を増強、これまでは1日分でしたが、3日分にするとともに、物資輸送に係るマニュアルを整備して、実働訓練を実施するというようにしております。災害に強い県づくりに取り組んでいきたいというふうに思っているところです。

冷房のことは一旦申し上げましたが、県内の市町村単位で見てもバラバラであるということも今ご指摘でありました。

学校施設は、児童・生徒の学習・生活の場であるとともに、災害時には避難所としての役割を担うことから、避難する方々の安全・安心を確保するための暑さ対策は極めて重要と認識しております。

東北は冷房の設置率が全国平均を下回っているというのはなぜなんだということを私は聞いたことがありまして、以前はもっと気温が、現在みたいに温暖化ではなかったのが、夏の暑さ対策というものはそれほどしなくても済んだということであったと。ただ、暖房は逆に西日本に比べると東北のほうが手厚いということになります。それは背景としてありますが、温暖化でやはり夏の暑さ対策も非常に大事になってきているという認識です。

文部科学省で実施した公立学校施設における空調・冷房設備の設置状況調査によりますと、令和8年5月1日現在で、避難所に指定されている県内の小中学校体育館の空調・冷房設備の設置率は50.7%でありまして、全国平均の33.1%を上回っております。

全国平均を上回っている主な要因としましては、令和5年度に発生した、部活動帰りの中学生が熱中症でお亡くなりになるという痛ましい事案がありました。それを踏まえ、県が中学校を対象に可搬式冷房機器、いわゆるスポットクーラーですね、そういったものの導入に係る補助事業を実施しましたことで、中学校における設置率が約9割に達しているということがあげられます。

一方で、小学校につきましては、未設置である市町村が多く、避難所指定が小学校のみの自治体で設置率が0%となっているところもあります。

いずれにしても、このたびの熊本地震におきまして、避難所環境の充実・改善の重要性ということが再認識されたところでありますので、今後、県教育委員会におきまして、市町村に対し、政府の屋内運動場への空調設備整備事業を活用するなどして、避難所指定の小中学校体育館への冷房設備の導入を一層進めていただくよう促していくと聞いているところであります。

記者

河北新報の渡辺と申します。よろしく願いいたします。

「ゆきまんてん」のロゴマークについてなんですけれども、こちら、本日発表という形になったと思うんですけれども、改めてこのロゴデザインでしたり、キャッチコピーになった

感想といたしますか、知事個人の思い入れみたいなところがあればお伺いできればと思います。よろしくお願いします。

知事

感想って、私の感想ですか？

記者

親しみやすいデザインといたしますか、知事的にはどういったところに魅力を感じたというか、いろいろ候補がある中で選ばれたと思うんですけれども、どういった思いでこういったものを決定したかというところをお伺いできればと思います。

知事

「ゆきまんてん」というお米の名前も非常にかわいらしいと言いますか、万人に、大人だけじゃなく、お買い物をする方々は大体大人なわけですが、お米を買う方は、その大人だけに限らず子どもにとっても、誰にとっても非常に親しみやすい、かわいらしいそういう名称だなと、まず名称については思います。

その名称になった「ゆきまんてん」のロゴマークですとか、米袋ですね、それがどのようになるのかなと思って楽しみにしておりましたけれども、大変そのイメージに合っているロゴと米袋ではないかなというふうに思ったところです。

やはり、これまでも山形でお米作りをするという「つや姫」や「雪若丸」とそのストーリー性というのはちょっと似ておまして、やはり山形の太陽、そして緑豊かな自然の中で、おいしい水で育まれるというようなことで、非常にストーリーも浮かびやすいかなというふうに思ったところです。しかも白いお米でありますので、雪というのが白さも表しております。雪だるまというのは必ず白いわけでありますので、そういうことでちょうどいいデザインなのかなと思って私は満点をあげたいと思います。

記者

ありがとうございます。あと、「雪若丸」の時ですと、イメージキャラクターに俳優の田中圭さんを起用して県内だったり首都圏に浸透を図っていたと思うんですけれども、現在のところイメージキャラクターの起用とかを考えていたりというところは、何かお考えとしてはありますでしょうか。

知事

そのところはどういうふうにしていくのかまではお聞きしておりません。そういうやり方をしていくのかどうかも含め、ブランド米ともまたちょっと違うのかなというふうにも思っています。

「つや姫」と「雪若丸」はブランド米なんですけれども、「ゆきまんてん」が、そのブランド戦略の会議でどういうふうにしていくのかということについて、まだ担当から詳しいことは聞いていない気がします。もちろん山形の大事なお米でありますので、「つや姫」、「雪若丸」、そして「はえぬき」もありますね。その「はえぬき」に立ち位置としては一番近いお米なのかなと思うんですけれども、どのような方法でPRしていくのかということにつきましては、これから議論していくのかなというふうに思っております。

記者

YTSの佐藤です。よろしくお願いします。

代表質問とちょっと重複する部分があるんですけれども、学力調査結果について改めて感じた危機感などがあればお聞かせください。

知事

やっぱり学力というのは、私は非常に大事だというふうに思っています。学校というところは学ぶ、校舎だと思うんですけれども、スポーツであったり、人間性でありましたり、いろいろな学びがありますけれども、この学力ということも最も重要なところかなというふうには思っておりました。

それでやはり毎年のように気になるわけでありますけれども、全教科で全国平均を下回ったというのは初めてということでもありますので、ちょっと危機感を持たなきゃいけないというふうに思っています。

子どもたちはですね、みんなのびのびと育てていってほしいというふうに思っていますし、また教員の皆さん、教職員の皆さんの働き方改革ということも非常に大事だと思います。ですが、学力はやっぱり学校というところで最も大事なところかなと思っていますので、改めて、私も教育局も、真摯に今回のこの結果を受け止めて、分析をやり、実効性ある対策ということにしっかりと取り組んでもらいたいというふうに思っています。

記者

先ほどの河北新報さんの「ゆきまんてん」に続いて関連するお話を伺わせてください。

先ほど「はえぬき」に近い立ち位置でというお話がございまして、この「ゆきまんてん」がいわゆる暑熱耐性を持っているというところの、期待感を伺わせたいというものになります。暑さ耐性を持っているというところで、今日もこのように猛暑でございまして、23年、特に暑さがひどかった年なんかも一等米比率が激減するなんていう被害が出たりしました。「はえぬき」ももちろんおいしい米ではあるんですけれども、あれは暑さに弱いという欠点もございまして、そこでそれに代わり得る、どういう等級かはまだ詳しく決ま

ってないということですけれども、主力品種を担えるこの「ゆきまんてん」というものがデビューすることに対して、将来の県の米生産をこれからどのように支えていくかというところの展望と、あとはこの品種自体の知事の期待感というところ、暑さに強くてお米が取れるというところの期待感というところをぜひ伺わせてください。

知事

県で品種を現在開発しておりますし、これまでも開発してきました。その中でやはり高温耐性、暑さに強いのかというのは非常にこの現代では重要なポイントだというふうに思っています。

今日も大変暑いわけですけど、「ゆきまんてん」の生育状況が、いずれの実証法でも順調に生育していると聞いております。これからも暑い日が続くようですけども、「ゆきまんてん」は暑さに強い品種でありますので、必ずやおいしいお米がとれるというふうに期待をしております。

「ゆきまんてん」というのは、「つや姫」「雪若丸」のようなブランド米とは異なり、家庭用や大手実需者による業務用に加え、加工用や輸出用米など、幅広いニーズに対応できるお米として販売していくことを想定しているというふうに聞いています。

なお、価格帯というところまで踏み込みますと、「つや姫」「雪若丸」に次ぐ「はえぬき」というのがあるわけですが、そこに近い価格帯が想定されるんですが、具体的には実需者等の市場評価を踏まえて決定されるものと考えております。

そして、収量性も高いというふうに聞いております。1割ほど多く取れるというふうに聞いておりますので、そういった点でもやはり輸出ということも視野に入れていけるというふうに思っています。いろんな意味でたくさんの方に愛されるお米になってほしいし、「はえぬき」が本当においしい米で、たくさんの方に食べていただいておりますけれども、高温耐性ということは非常に重要でありますので、できる限り速やかに、この「ゆきまんてん」の良さを分かっただいて、普及してもらいたいというふうに私は思っております。

記者

TUYの山口です。

学力調査についての質問です。山形県は全国に先駆けて探求学習に力を入れていると思うんですけど、そんな中、一般的な国語・数学のような科目で全国平均を下回ったということで、その両立、探求学習と一般的な科目の両立とかがおろそかになっているとは言わないですけど、今後どうしていくべきか、探求学習も含めどうしていくべきか教えていただけますか。

知事

今記者さんがおっしゃった通りですね、さんさんプランというようなことで全国に先駆けて実施をしてきました少人数学級編成ということで、全国に名を轟かせたというふうに思っておりますけれども、それが不登校とかですね、そういったことには効果が出ているというようなことを聞いた時期もあったんですけども、今や全国的にそういう少人数学編成に近いものになっております。同じような土俵になってきたのかなということは考えておりますけれども、全国的な学力テストの中でうちの県が平均以下であるというのは、本当に真摯に受け止めなきゃいけないし、厳しく県民の皆様からのご指摘されるというふうに思っていますので、そこはもっともっと様々な努力をしていく必要がある。やはり子どもたちが、人間性もそうでありますけれども、学力というものを身につけて社会に出ていくわけでありますので、その子どもたちのことを考えると、やはり全国平均以下というようなことは、この位置ではいけないというふうに思っておりますので、本当に教育界一丸となってそこは取り組んでいただきたいというふうに思っております。

以上